

夜明け前の海



## 担い手増やし国賠署名を広げましょう

コロナ禍で寒気が強いこの頃、会員みなさんの各方面でのご奮闘に敬意を表します。

さて同盟の基本的活動である「国賠個人署名」の2022年1月の到達は1004筆（5000筆目標の20%）で、この1月に285筆増やしました。5月の国会請願めざして、4月中に目標をやり遂げようとする、全県で2月から毎月、1350筆を集める必要があります。会員1人当たりになると、2月〜4月に39筆を集めて達成できます。これは達成可能な数字ではないでしょうか。いま必要なことは、支部で毎月の署名獲得目標を決め、署名用紙を



滋賀県版No. 337

2022・2・15

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
〒113-0034  
東京都文京区湯島2-4-1  
平和と労働センター・  
全労連会館

発行  
滋賀県本部  
〒520-0803  
大津市竜が丘11-22-316  
☎077-521-0884  
袖口 延

2月1日現在  
会員 311人  
(目標350人)  
個人署名  
1004筆  
(目標5,000筆)  
団体署名  
26筆  
(目標150筆)

会員全員に届け、会員に「署名集まっていますか」と声をかけることです。会員はいろんな署名に取り組んでいるため、「黄色い署名」を意識してもらった「声かけ」が重要です。県本部、支部の幹部が先頭に立つて、「国賠署名」を推進しましょう。

「伊藤千代子・映画化運動」に協力してください。署名の協力をお願いします。

また3月〜6月は同盟中央の提起する「2万人会員実現特別期間」です。県本部、支部の三役会議、幹事会でこの運動の準備もすすめようではありませんか。

### 事務局だより

袖口 延

先日『暁の宇品 陸軍船舶司令官たちのヒロシマ』（堀川恵子著）を読みました。戦時中、日本軍最大の輸送基地であった広島島の宇品港を舞台にロジスティクスの面から陸軍の無謀な戦いぶりを描いています。

日本は島国であり、兵士や武器、食料など海上輸送の重要性が明かであるにも関わらず、日本陸軍は兵站（後方支援）を軽視し、データを無視し、自滅してしまいました。その結果、前線に食料や医薬品が届かず、戦場になる前に、飢餓や病気で多くの兵士が亡くなりました。著者は食糧からあらゆる資源のほとんどを海上輸送に依存する日本にとって、シーレーンの安全と輸送力の確保は平時においても国家存立の基本であると述べ、昨今の専守防衛を逸脱する議論に警鐘を鳴らしています。

## 映画「わが青春つぎるとも 伊藤千代子の生涯」

上映日決まる 彦根 5月28日、29日 長浜 5月21日

映画「わが青春つぎるとも」伊藤千代子の生涯」は、4月15日から全国でいっせいに封切りされます。県内の二つの地域実行委員会が上映日が決まりました。取り組みを紹介します。

若い人たちにも見てもらおう

映画「わが青春つぎるとも 伊藤千代子の生涯」を観る彦根・犬上・愛荘の会

映画「わが青春つぎるとも 伊藤千代子の生涯」を観る彦根・犬上・愛荘の会（以下、「会」）は、1月25日、午前10時より第2回実行委員会を彦根労文センターで開き、上映会場や日時などについて協議しました。

最初に事務局（日本共産党・救援会・国賠同盟で構成）より、①12月22日に事務局会議を開いたこと

と、②千代子の会ニュース第1号を発行したこと、③カラーチラシを実行委員会構成団体に1000枚配布したことなどが報告されました。

続いて、上映日時について相談の結果、①5月28日（土）、29日（日）にすること、②会場は彦根市内で2カ所、豊郷で1カ所、愛荘については検討する事を決め、実行委員会終了後、事務局で会場を探した結果、3カ所の会場を確保しました。

上映券をどうするかについても議論をし、県の実行委員会が500円と決定したことを受けて「会」としても500円とする事を決定しましたが、若い人たちにも見てもらうために学生は無料としました。

また、単なる映画の上映に終わらずに、運動として発展させるために、賛同人を各団体で20人を目標に組織し3月までに100人の賛同人をつくることも決めました。

最後に、上映を成功させるために、3月26日（土）に「伊藤千代子に学ぶ集会」を開く事を決定しました。

（彦根愛大支部 事務局 鈴木勉市）

## 5月21日（土）映画上映

200人の視聴者を目標に 湖北「千代子の会」

湖北「千代子の会」は昨年10月に結成し、映画製作・上映会への募金活動をすすめてきました。とし1月、第2回会議を開催し、上映会への取り組みを協議しました。

その概要は、

1. 5月21日（土）長浜市民交流センターのホールにて、午前午後の2回上映する（会場は2月1日に予約済）
2. 入場整理券や宣伝資材は、県の計画に沿って取り組む

3. 整理券の配布は、募金協力者を優先する。入場料は無料にする

4. 映写技師は、藤本隆章さんをお願いする……である。

まず、湖北（長浜市・米原市）で、約200人の視聴者を組織して上映会を成功させたいと思っています。そして、参議院選挙、長浜市議会議員選挙後に改めて「上映会」を計画・開催し、「伊藤千代子」の名を広め、その生き方に学んで「治維法蘭西同盟」の会員を広めてゆきたいと思っています。

当面、2月の同盟幹事会後に第3回会議を開催し、湖北「千代子の会」ニュースを発行し、参加団体会員に「上映会」のお知らせをする予定です。

（湖北支部支部長 橋本健）

## コロナ禍のなかで学ぶ多くの学生に見てほしい！

## 大津での上映に向けて

すべての若者を視野に入れた

取り組みをしよう

大津支部

1月23日、2回目の「みんな」をしました。雨模様の寒い中、なんと70人を超える学生さんが食料などの支援を求めてやってきました。準備した食料などが足りなくなり急遽2回も買い出しに行きました。

話の中で、年間の授業料を聞くと140万円あまりとか。140万円の学費を払いながら、毎日の食料にも苦しんでいる。そのあまりの落差に衝撃を受けました。50年前、私が大学に入ったころは、5千円の奨学金と京都新聞のバイトでやめました。一体この50年間で大学生の生活はどうなってしまったのか。私は激しい衝撃を受けました。

この大学生にこそ、映画「伊藤千代子の生涯」を見てほしいと思いましたが、この映画は、今コロナ禍の中で学ぶ若者ものたちの映画ではないかと強く思いました。滋賀県には多くの大学や看護学校があり、若者が学んでいます。

このすべての若者を視野にいれて、上映運動を成功させるため、大津でも国賠同盟大津支部が呼びかけ、上映実行委員会を2月中旬に立ち上げ、取り組みを進めたいと準備しているところです。

（大津支部長 松尾隆司）

## 映画「伊藤千代子・滋賀の会」

実行委員会

5月からいよいよ上映運動スタートします。上映権（8口分）が届きました！

1月18日第6回実行委員会を開きました。7団体11人が参加。

上映運動成功のため、さらに5団体の代表（安孫子義昭・滋賀宗平協理理事長、近藤孝・県平和委員会代表理事、岡本恭治・県労働組合総連合議長、太田多賀子・県母親大会連絡会会長、一井幸子・葎笛短歌会代表）を共同代表に。

賛同者や協賛金を引き続き訴えることなど話し合われました。とくに地域実行委員会ともつと連携することが必要だと思ふ！など率直な意見も出されました。

## 次回実行委員会

2月24日（木）10時

新婦人県事務所

まず、第一次上映会（4月半ば）参議院選）を大きく成功させましょう！

湖北、彦根、大津、志賀の4地域で実行委員会の取り組みがまとめられています。

（実行委員会事務局 古谷道代）

## 畠山忠弘氏原稿（4頁）より続く

七月一七日には伊藤千代子生誕一〇〇年を記念して、故郷の諏訪市で集会がもたれ、苦小牧からも、外尾副実行委員長、名雪委員と私の三人が参加した。全国から千人以上が集まる大きな集会となった。

十二月には、苦小牧市で行った「伊藤千代子最後の手紙公開の集い」の講演記録、四通の手紙などを収めた記念誌「地しほりの花」が発行された。現在、版をかさね、すでに千数百部が全国に行き渡りつつある。

この運動のなかで作られた詩や短歌もあり、なかには曲がつけられ、すでにCDとなって発売されたものもある。

こうして、伊藤千代子が命をかけてつらぬいた社会進歩をめざす、こころざしは、日を追って、全国に広がりつつある。

（終わり）

# 伊藤千代子最後の手紙公開のめぐりこめ ⑤

畠山 忠弘 (国語同盟吉小牧支部)

公開の初日に「伊藤千代子最後の手紙を見る会」がもたれた。公開が急に決まったので、広く案内するいとまがなく、新聞社に依頼して、紙面で報道していただいた。

反応は、非常に大きく、全道から四十三人の参加者があった。参加者も多彩であった。幾つかの大学の名誉教授、元国会議員、小林多喜二の研究者、歌人、詩人、文学愛好者、郷土史家等が顔を揃えた。諏訪市から三沢実氏、東京から藤田廣登氏が駆けつけてくれた。

会場となった苦小牧中央図書館の講堂には、公開された四通の手紙が、ビニールケースに納められ、誰でも見ることができた。三沢氏や藤田氏が、今日に至る伊藤千代子の顕彰運動と四通の手紙についての解説が行われた。

翌日の新聞は、一斉に「伊藤千代子最後の手紙公開」を取り上げ、千代子の顔写真や手紙の一部をのせて報道した社が多かった。

後日、第一回実行委員会が開かれ、実行委員長に、諏訪市出身の北海道大学名誉教授・石城謙吉氏、副実行委員長に、治安維持法国語同盟の支部長外尾静子氏が選任され、実行委員には、苦小牧をはじめ、全道

参加者からは、質問が殺到した。千代子と浅野晃との関係や、小林多喜二のかかわりであり、死因はなぜ肺炎なのかというものもあった。伊藤千代子の後につく治安維持法犠牲者についての研究を述べる人もいて、会は熱気につづまれた。

私は最後に「伊藤千代子の集いを開こう」と呼びかけた。参加者の、全員から賛同を得た。実行委員会がその場で結成された。

七月三日、全道から三〇〇人が参加して「伊藤千代子最後の手紙公開記念の集い」が開催された。

講師には、伊藤千代子研究の先達、長野市在住の郷土史家東栄蔵氏と戦前の女性活動家研究者で、日本共産党中央常任幹部会員の広井暢子氏を招き、それぞれ講演をしていただいた。

七月三日、全道から三〇〇人が参加して「伊藤千代子最後の手紙公開記念の集い」が開催された。講師には、伊藤千代子研究の先達、長野市在住の郷土史家東栄蔵氏と戦前の女性活動家研究者で、日本共産党中央常任幹部会員の広井暢子氏を招き、それぞれ講演をしていただいた。

あつた浅野晃から四通の手紙を含む、三つの資料を託された」として公開された「四通の手紙」のいきさつや、千代子の活動、小林多喜二との関わり、浅野晃の手記「千代子の死」もふくめて生々しく語った。

広井暢子氏は、自分の良心のままに生きるためには、弾圧に抗し、いのちをかけてたたかう以外になかった戦前の状況と、その中で若き女性党員たちのたたかいを感動的に紹介。弾圧によって国民のたたかいを鎮圧し、侵略戦争へと突き進んでいった暗黒時代を振り返り「千代子のような人々のたたかいが無かったら、戦後の民主主義も平和も全て外国からの持ち込みと言われていたでしょう。今日のアジア諸国との交流に当たっても、深い信頼と連帯の土台となっているのです」と強調。国民を弾圧した圧政時代の残滓(残りかす)を戦後に残し、今日に至っていることを告発し、「戦前のたたかいを引き継いでたたかうことの重要性」を熱く語った。二人の講師の話は、参加者に深い感銘をあたえた。

(3頁へつづく)

## 「伊藤千代子の生きた時代」第6回

金子みすゞと童謡運動

高田 直樹

伊藤千代子(1905〜1929)とほぼ同時代を生きた金子みすゞ(1903〜1930)。

彼女は、今日では1月のEテレ「100分de名著」にも取り上げられた人気の詩人ですが、生前は一冊の詩集も出せないまま26歳で自死という不遇の最期でした。その短い生涯には「大正デモクラシーの時代」の明と暗が、象徴的に示されています。

私と小鳥と鈴と

金子みすゞ

私が両手を広げて、  
お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、  
地べたを速くは走れない。

私がかたがたをゆすつても、  
きれいな音は出ないけど、

あのなる鈴は私のように、  
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私  
みんなちがって、みんないい。

何年前か、在日コリアンの歌手、李政美さんが長浜市でコンサートを開いたとき、この詩に自ら曲をつけ歌ってくれて、感動したのが金子みすゞの詩との出会いでした。

大正期の童謡運動は

滋賀県内でも――

童謡は1918年7月に作家の鈴木三重吉が創刊した雑誌『赤い鳥』をきっかけにして創作され、当時大流行しました。『赤い鳥』は1万部で創刊されましたが、1

年半後には3万部に急成長しています。

『赤い鳥』には滋賀県の子どもの作品も多く掲載されています。

『赤い鳥』1924年3月号にはマキノ町立百瀬校(現マキノ南小)の児童作品が10編も掲載されています。

私の父勝秀が12歳の時の自由詩も掲載されました。

滋賀県百瀬校尋六

高田勝秀

夜(推奨)

弟がうそを書いている、  
妹が菓子を食べる、  
がんの声が近づいた。

この詩に選者の北原白秋が選評を書いていました。

「高田君『夜』はありのままの即興で、しかもつかむものを確かにつかんでゐます。ちょうど志賀直哉氏のある小説の書き出しのような感じがします。いいものです。」

当時、百瀬校には前川仲三郎という20代の青年教師が創作指導を

行っていました。前川先生は宝塚歌劇団のレコードを買ってきて、学級で役割分担をして歌劇の練習をするなど、創作表現活動を中心に据えた指導をしていました。

私の父はその後、国語教師になり、新任地の南比都佐校(現日野町立南比都佐小学校)高等科で「五感を動員して描こう」という指導をし、『赤い鳥』へも同校の生徒が数多く投稿されたということでした。

(木全清博『滋賀の学校史』2004年文理園)

※(私は、父が作文指導に力を入れた教育実践を行っていたことは知っていました。直接父から詳しい話を聞くこともなく、この木全さんの本で初めて知りました。)

この時期、子どもたちの自主的で主体的な活動を尊重しなければならぬとする児童中心の教育が生まれていました。子どもたちに本物の「詩である童謡」を手渡そうと始まった童謡運動もこの流れの一つです。それは、「富国強兵の忠君愛国の少年」、「良妻賢母となる少女」という明治時代の国家主義に基づく



児童観とは異なる児童観に基づくものでした。

### ただ一人の女性童謡詩人

#### として活躍

『赤い鳥』につづき翌1919年に『金の船』、その翌年には『童話』が発刊され、北原白秋、野口雨情、西條八十らがそれぞれの雑誌に新しい童謡を発表し、投稿者たちを指導しました。

こうした童謡運動が最も華やかな時代に、みずぶは山口県立天津女学校を卒業し、下関市で家業の本屋を手伝いながら投稿詩人として詩作に励みます。みずぶが最も数多く投稿したのは西條八十が選者となっていた『童話』でした。1923年9月号の『童話』には西條八十の選評が載っています。

「大人の作では金子さんの『おさかな』と『打出の小槌』に心を惹かれた。：閨秀の童謡詩人が皆無の今日、この調子で努力して頂きたいとおもふ。」

ここで閨秀詩人、すなわち女性の詩人が皆無だと言っているように、当時は選に入る女性は金子みずぶただ一人だったのです。

### 童謡運動の衰退と

#### みずぶの死

金子みずぶは、1930年3月、26歳の若さで睡眠薬を大量に飲んで、自殺しました。

彼女の自殺の原因については多くの人がさまざまに語っています。実弟の雅輔は、みずぶが敬愛し、『赤い鳥』にも寄稿していた芥川龍之介の自殺（1926年7月）を「決定的要因」としています。

また結婚生活の中で不幸が重なって追い詰められた結果だという人もいます。夫の遊郭遊びで淋病をうつされ、健康を害していたこと、夫から詩作を禁じられたこと、ついには離婚となり、夫に娘を渡さなくてはならなくなったこと、などです。夫宛の遺書には、娘を「母ミチにあずけてほしい」

と書かれていました。

作家松本侑子は、これらの要因に加えて、童謡運動の衰退をあげています。1929年までに童謡の三大誌がすべて廃刊、休刊に追い込まれました。みずぶは、発表の機会を奪われます。西條八十に五百十二もの詩を手書きして送りましたが、詩集を出すという話はいずれも出ませんでした。

「童謡詩の衰退の背景には、童謡詩の誕生を後押しした大正デモクラシーのリベラルで文化的な気運の消滅があります。大正十四年、治安維持法が制定され、民主的な論議は弱りはじめ、自由な表現、子どものための自由な教育も否定されていきます。」（松本侑子「100分de名著金子みずぶ詩集」）

### 帆

#### 金子みずぶ

ちよいと、

渚の貝がら見た間に、

あの帆はどっかへ  
行ってしまった。  
こんなふうに  
行ってしまった、  
誰かがあったー  
何かがあったー

金子みずぶが亡くなった頃は昭和恐慌が吹き荒れ、翌年には満州事変が勃発します。みずぶが師と仰いでいた西條八十は童謡『守れよ満州』を書き、十三歳の童謡歌手がそれを歌う時代となりました。大正時代に童謡文化を生み出した自由な気風は急速に失われていったのです。



## 滋賀と朝鮮 71

### 大津市の朝鮮人教育闘争④

#### 河かおる

この原稿が掲載される頃には、二年ぶりに再開した韓国との交換留学で学生がソウルに到着している頃です。私も夏には久しぶりに渡韓したいと楽しみにしています。一方で、韓国を含む全ての国からの留学生は、日本政府の入国禁止措置により自国ですとオンライン授業で耐えています。本当にひどいです。

前回から、滋賀県行政文書をはじめ中央・地方の行政文書をもとに、戦後の在日朝鮮人に関わる教育行政について考察した松下佳弘『朝鮮人学校の子どもたち 戦後在日朝鮮人教育行政の展開』（六花出版、二〇二〇年）に基づいて、一九四九年の朝鮮人学校閉鎖措置のプロセスについて詳しく見えています。今回はその続きで「教職適格審査」というものについて見ていきます。

「教職適格審査」と聞いても何のことかピンと来なくても、「教職追放」なら聞いたことがあるのではないのでしょうか？ 平凡社の『世界大百科事典』の「教職追放」の項目には次のように説明があります。「第二次大戦後、占領政策に基づいて、教育民主化のため軍国主義者、極端な国家主義者等を教職から追放した」。この「追放」されるべき人を洗い出すのが「教職適格審査」です。この「教育民主化」のためにとられた政策が、朝鮮学校と一体どんな関係があるのでしょうか？

少し時間を巻き戻してみます。一九四八年一月二十四日、文部省は通達「朝鮮人学校の取り扱いについて」（一・二四通達）で、朝鮮人に日本の法令に服することを求めました。つまり学校教育法第一条に規定する学校に行くか、朝鮮

人学校を続けるなら私立学校の認可を受けるといふものです。これが同年四月の阪神教育闘争につながったことは以前にも書いたことがあると思うので省略します。そして二日後の一月二十六日、文部省はもう一つ通達を出します。それが、朝鮮人学校の教職員にも教職適格審査を受けることを求めるものでした。

教職適格審査は、前述のとおり、「教育の民主化」のために、「軍国主義者」や「極端な国家主義者」が教職に就くことを禁じる占領政策で、一九四八年五月までに約七〇万人の日本人教育関係者の審査を終了し、約五〇〇〇人が「不適格」とされました。朝鮮人には適用されていませんでした。軍国主義、国家主義の被害者の側にあった朝鮮人にこれを適用するというのはそもそも意味不明です。にもかかわらず、朝鮮人も日本の法制に従わねばならないという建前のもと、同年四月一日に改めて審査漏れのないように通達が出されました。この時は、審査に応じれば「適格」（「軍国主義者」や「極端な国家主義者」の前歴が確認

できるはずがありませんから、当然）、もし審査に応じなくても黙認されました。

滋賀県でも一九四八年六月以後、一七人が教職適格審査を受け、全員が「適格」となりました（表）。ところが、一九四九年一〇月の学校閉鎖措置の後、この一七人が「再審査」に付されて実に一〇人が「不適格」とされたのです（表）。一体どういうことなのか。

一九四九年一〇月一二日の閣議決定「朝鮮人学校処置方針」による学校に対する「処置」とあわせて、一〇月一三日、文部事務次官は、都道府県の教職員適格審査委員会对して「極秘」通達「朝鮮人学校の設立者及び教職員等の適格審査について」を發します。これで、学校閉鎖措置に伴って新たに設置または改組される学校の法人役員と教職員に対する教職適格審査の「審査」と「再審査」を命じました。

そもそも「再審査」とは、「不適格」とされた人を対象になされ

るものであり、「適格」とされた人に「再審査」を命じることは、極めて乱暴な法運用でした。また、この「極秘」通達で命じられた適格審査では、「連合国軍の日本占領の目的と政策に反対」しているかどうかを審査するよう特定されました。「軍国主義者」「極端な国家主義者」であるかをチェックするという本来目的はどこへ行ったのでしょうか。さらには、文部省が省令を改正し、審査基準の一部を後出しで変更しました。すなわち、「不適格」となる基準に、団体等規制令によって解散した団体（要するに朝連のこと）と関係のあった者を加えたのです。問題はまだあります。審査に必要な「調査票」は本人に提出させることなく、警察などから秘密裏に情報収集してそれで審査しろというのです。まるで戦前の内務省だと松下さんは指摘します。

こうして、解散団体である朝連との「関係」が何か見つかりさえすれば「不適格」にできることになりました。滋賀県で一九四九年一〇～一二月に「不適格」とされた二〇人は、いずれも前年の審査で「適格」でした。それが、九人は朝連との関係が理由で、残りの一人は「占領軍事犯」で「不適格」となりました。松下さんはこの「占領軍事犯」とされた人が八日市朝鮮人学校の教員であることから、一九四八年の「国旗掲揚事件」の関係者ではないかと推測し、学校で自国の国旗を掲げたことが「不適格」の理由とされたことの問題を指摘しています。

先にも、日本人教員約五〇〇人が「不適格」とされたと書きましたが、職業軍人などを除き、そのほとんどは「再審査」により「追放解除」となりました。ところが、朝鮮人に対しては、一度審査をして「適格」だった者を「再審査」して「追放」したのです。その総数は不明ですが、朝連との関係で「不適格」とされた人数だけでも全国で一六〇人に上ります。これが「教育の民主化」に大きな役割を果たしたとされる「教職追放」のもう一つの側面であること

を忘れてはならないでしょう。

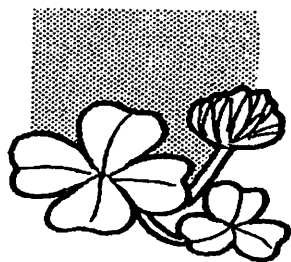


表 朝鮮人教職員に対する教職適格審査数（滋賀県）

| 時期                 | 適格 | 不適格 |
|--------------------|----|-----|
| 1948年6月～1949年10月上旬 | 17 | 0   |
| 1949年10月下旬～同年12月   | 36 | 10  |
| 1950年1月～1951年12月   | 35 | 2   |
| 合計                 | 88 | 12  |

典拠・「教員適格審査（昭43-243-6）」『滋賀県行政文書』  
松下佳弘『朝鮮人学校の子どもたち  
戦後在日朝鮮人教育行政の展開』  
（六花出版 2020年）p163